

営農再開地域におけるカンショ品種の地域適性の把握 (田村市、檜葉町)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 カンショの作期分散の実証（田村市、檜葉町）

担当者 渡辺明、佐藤越萌、松岡宏明

I 新技術の解説

1 要旨

営農再開地域においてカンショ「べにはるか」の栽培が拡大しているが、田村市都路地区では収穫期の労力集中、檜葉町では水稻の収穫との競合が問題となっており、地域の実情に応じた品種導入が求められている。そこで、カンショ品種の地域適性を調査した結果、田村市都路地区では「栗かぐや」「あまはづき」、檜葉町では「あまはづき」が適すると考えられた。

- (1) 田村市、檜葉町ともに、約 110 日で収穫の目安となる移植後積算温度（以下「積算温度」という。） $2,500^{\circ}\text{C}$ 、約 130 日で積算温度 $3,000^{\circ}\text{C}$ に到達した（表 1）。
- (2) 田村市の「栗かぐや」「あまはづき」の収量は、積算温度 $2,500^{\circ}\text{C}$ 時点で「べにはるか」を上回る $3\text{t}/10\text{a}$ 以上であった（図 1）。
- (3) 檜葉町の「あまはづき」の収量は、積算温度 $2,500^{\circ}\text{C}$ 時点で積算温度 $3,000^{\circ}\text{C}$ と同等であった（図 1）。

2 期待される効果

- (1) カンショ品種選定の参考資料となり、収穫時期が早まることで収穫期の労力集中回避、水稻の収穫との競合回避が期待できる。

3 活用上の留意点

- (1) 檜葉町の「あまはづき」では、積算温度が高くなるにつれ裂開、コガネムシの幼虫による食害が発生したため、積算温度 $2,500^{\circ}\text{C}$ を目安に収穫する。
- (2) 栽植本数は田村市で $2,930$ 本/ 10a 、檜葉町で $2,381$ 本/ 10a 、施肥 ($\text{N-P}_2\text{O}_5\text{-K}_2\text{O}$) は田村市で $5.4\text{-}15.9\text{-}19.8$ (成分 $\text{kg}/10\text{a}$)、檜葉町で $0.5\text{-}4.6\text{-}11.8$ (成分 $\text{kg}/10\text{a}$) とした。
- (3) 干しいも等に加工するといもの放射性セシウム濃度が高まるため、作付け前に土壌の放射性セシウム濃度、加工前にいもの放射性セシウム濃度に留意すること。

II 具体的データ等

表1 各品種における積算温度別の収穫日及び裂開等の発生割合

ほ場	品種	積算温度 (°C)	移植日 (月日)	収穫日 (月日)	収穫までの日数 (日)	上いも中の 裂開等割合 (%)	上いも中の 食害割合 (%)
田村市	ゆきこまち	2,500	5月27日	9月12日	108	0.0	0.0
		3,000		10月4日	130	0.0	0.0
	栗かぐや	2,500	5月30日	9月17日	110	0.0	0.0
		3,000		10月10日	133	0.0	0.0
	あまはづき	2,500	6月4日	9月17日	105	0.0	0.0
		3,000		10月15日	133	0.0	0.0
	べにはるか (慣行)	2,500	5月22日	9月6日	107	0.0	0.0
		3,000		10月1日	132	0.0	0.0
檜葉町	あまはづき	2,500	5月20日	9月4日	107	0.0	0.0
		3,000		9月24日	127	3.6	14.3
	べにはるか (慣行)	2,500	5月12日	8月30日	110	0.0	0.0
		3,000		9月18日	129	0.0	0.0

注 上いもは1個あたり50g以上のいも

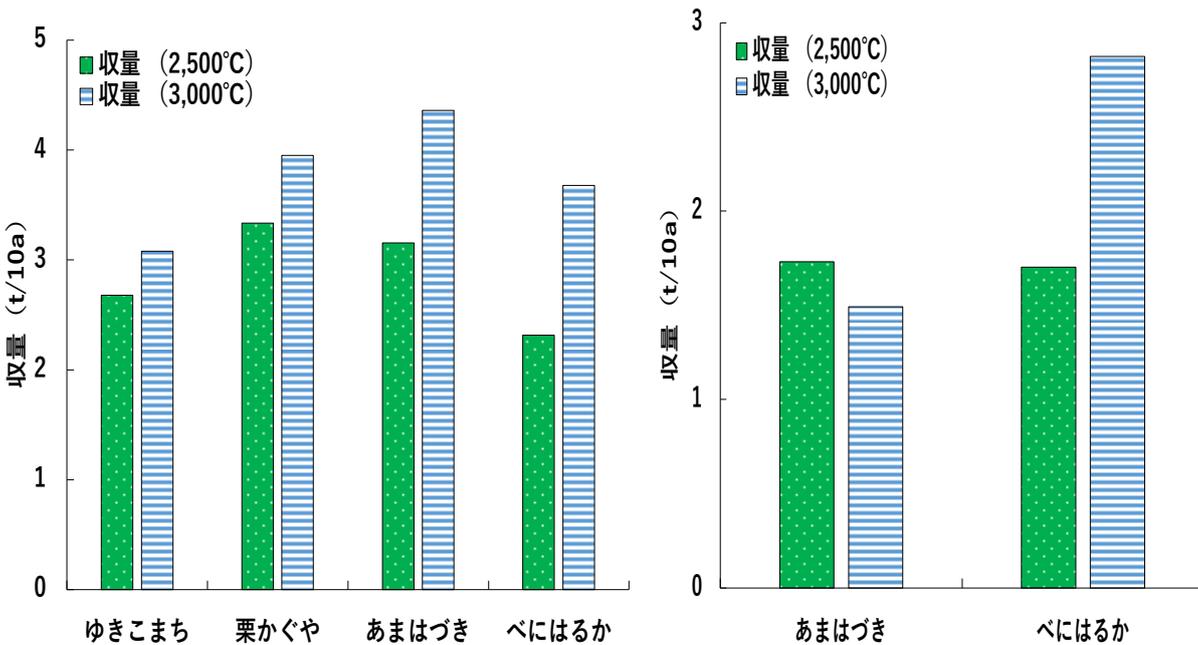


図1 各品種における積算温度別収量 (左: 田村市、右: 檜葉町)

注 1個あたり50g以上のいもの重量を収量とした

III その他

- 1 執筆者 渡辺明、佐藤越萌
- 2 実施期間 令和6年度
- 3 主な参考文献・資料 なし